

使徒言行録 13 章 1-12 節 「聖霊による旅行」

バルナバとサウロはエルサレムからアンティオキアの教会へ戻ってきました。アンティオキア教会は、多様な人々が集まっていたのですが、いまや複数のリーダーが立てられる程、教会は発展していました。そのアンティオキア教会に、新たな宣教ビジョンが神さまによって与えられます。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい」という示しです。聖霊の示しはバルナバやサウロ個人に与えられたものではありません。聖霊がこの二人を、「わたしが前もって決めておいた仕事に当たらせるために」指名されたのです。つまり、伝道旅行が行われることも、また誰がそのために遣わされるのかも、全ては聖霊が、即ち神様が教会にお命じになったことだったのです。

さて、アンティオキアの教会の人々は心一つにして祈り、バルナバとサウロを「送り出す」ことによって新しい一歩を踏み出したのです。「送り出す」というのは派遣するという意味の言葉です。教会が自分たちだけの狭い発展を考えるのではなく、愛の業としての宣教を目指す時、アンティオキアの教会がバルナバとサウロを旅へ送り出したように、何かを解き放ちます。自分の狭い枠を守って生きていくとき、損をすることは少ないかもしれませんが、しかし、神の示しに従って、何かを解き放つ時、神は豊かな祝福を与えてくださいます。逆に、私たちは聖霊によって、私たちは失うことを恐れなくなるのです。聖霊によって、私たちは深いところで解放されるのです。

アンティオキア教会で祈られ、聖霊によって導かれて来たはずのキプロスで、偽預言者、そして魔術師でもある、バルイエス、またの名をエリマという男がバルナバとサウロに対抗してきたのです。当時、キプロス島は、さまざまな地域の宗教がまじりあって、このような怪しげな人間が結構いたようなのです。人間は、さまざまな恐れや不安のゆえに怪しげなものに頼ります。科学技術が進んだ現代でも、2000 年前のキプロス島と、人間の心は変わっていないということです。この男も、聖霊に満たされたパウロによって、その無力さを暴かれました。そこに主の働きを、総督は見ました。宗教混交のはなはだしいキプロスで、まことに信じるに足る、まことの神の業を総督は見たのです。そしてそれこそが神がなされたことでした。総督パウルスは主の教えを受け入れ、主イエス・キリストを信じる信仰者となりました。礼拝と祈りの中で教会に示された主の御心が、このようにして、聖霊のお働きによって実現していきます。私たちも、それと同じ聖霊のみ業の中に置かれているのです。聖霊なる神様は、今度は私たちを、御業のために用いようとしておられます。今この礼拝から、聖霊が私たちをそれぞれの場へと送り出してください。聖霊に送り出されて、聖霊のお働きに身を委ねつつ歩むならば、私たちはそれぞれの与えられている場で、神様が教会に与えておられる伝道の使命を担う者となることができます。神はすべてのことを、救いへと、愛へと用いられます。私たちをも用いてくださいます。そしてまたこの私たちのためにも神はすべてのことを用いてくださいます。それぞれの場で、それぞれの与えられたときに、私たちがそれぞれに用いられますように。